

## 趣旨

排泄予測支援機器「DFree」を京都府長岡京市において、日常生活用具として認定いただきたく陳情いたします。令和6年3月の障害保健福祉関係主管課長会議資料「日常生活用具給付等事業の適正な実施について」には、「日常生活用具給付等事業については、その事業費が年々増加傾向にあり、今後も安定した事業運営を行うためには、各市町村において効果的・効率的な事業実施が図られる必要がある。また、当事者団体等からは、一部の市町村においては、長期間にわたり種目や基準額等の見直しが行われていない状況にあるとの声も寄せられているところである。このため、各市町村においては、平成18年の障害者自立支援法以前に国が定めた基準額や実施方法にとらわれることなく、定期的に当事者の意見を聴取によるニーズ把握や実勢価格の調査等、地域の実情に即した、適切な種目や基準額となるよう定期的な見直しに努められたい。」と記載があります。これに基づき、排泄予測支援機器を、長岡京市において、日常生活用具として追加認定いただきたく存じます。

## 理由

### 1. [基本情報・排泄に関する情報]

- ・11歳、男児/自閉症、知的障害/療育手帳（最重度）
- ・発語は全くない、言葉の理解はほぼできず生後10か月ほどのイメージ
- ・日常生活の流れ（ご飯、お風呂等）は理解しているが、意思の疎通はできない
- ・普段はオムツを着用し排泄
- ・トイレトレーニングをしたこともあるが、トイレはオムツを履き替える場所という程度の理解。自立歩行できるためトイレ誘導するものの、長時間便座に座ることが難しいなどの問題あり

上記状況から、身体的には問題なく、理解ができるようになればトイレで排尿できるようになると考えました。また、成人してもオムツを着用したままというよりも今後の生活を考えオムツを卒業させたいと考えていました。

そんな折に出会い、活用しているのが「DFree」です。

- ### 2. 排泄予測支援機器「DFree」は超音波センサーにより膀胱を経時的にモニタリングし、膀胱内の尿のたまり具合を0～10で数値化します。その数値は専用タブレットや自身のスマートフォンから確認でき、排尿のタイミングを予測し、排尿の機会を本人または介助を行う者に通知することができます。我が家でも「DFree」をつかうことで、尿が溜まったタイミングでトイレへ誘導を続ければ、トイレは排尿する場だと理解をしてくれる可能性が高いと思い使い始めました。数値が上がって通知があれば「トイレ行こうか」と本人へ声がけし、本人もトイレでの座り方がうまくなってきており、排尿に向けた兆しが見えています。それでも何度も繰り返し誘導しトイレ排尿を体感させることで、いずれは本人から「トイレへ行きたい」という意思表示ができるようになればと考えています。このように、尿意を伝えたり感じる

ことが難しい障害者にとって DFree は非常に有用です。 DFree は令和 4 年 4 月に特定福祉用具に認定され、介護保険適用となっていることもあり、ぜひ障害者にも負担が少なく購入できるようになることを求め、上記事項を陳情いたします。